



熊本県立矢部高等学校

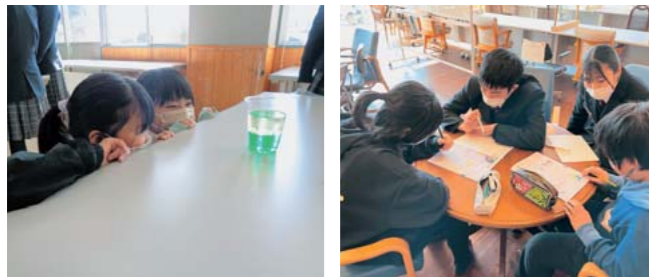
〒861-3515
上益城郡山都町城平954番地
電話:72-0024 fax:73-1030

～夢の実現に向けて～ 大学入学共通テスト激励会！

1月13日、「大学入学共通テスト」受験者への激励会が実施されました。学校長から激励の言葉を受けて、代表の生徒が決意と覚悟を力強く宣誓しました。今年度は普通科7名の生徒がそれぞれの志に向けて挑戦します。これまで積み重ねてきた努力を最大限発揮し、全力を尽くして頑張りたいと思います。



フォレストウィンタースクール開校！



矢部高校普通科2年生は「総合的な探求の時間」という授業のなかで各班ごとに様々な取り組みをおこなっています。そのなかで「廃校利用」をテーマとして活動をおこなう班が中心となって「フォレストウィンタースクール」というイベントをおこないました。廃校となった旧白糸第一小学校（現サテライトオフィス白糸）に地域の小中学生を招き、高校生と一緒に勉強をしたり、実験をしたり、遊んだりしました。地域の子どもたちと笑顔で交流する姿や、高校生の先輩として勉強や実験の手順を教えることが貴重な経験となりました。今回の経験をこれからの学校生活にも活かして行きたいと思います。

～地域をささえるインフラ、間近に～ 1 学年現場見学

12月6日、熊本県建設業協会の上益城支部のご協力のもと、食農科学科と普通科1年生で、建設現場見学に行きました。最初に、北中島の九州中央道を見学し、国土交通省の方から山都町に高速道路ができるまでの道のりを教えていただきました。次に、山都町運動公園（仮称）の建設と近隣道路の整備について、山都町建設課と矢部開発さんに説明していただきました。私たちの暮らしを支えるインフラ整備が建設業であり、熊本地震の時は、いち早く益城町の道路補修に行かれたのも建設業の皆様でした。学校では学ぶことができない貴重な話を聞くことができました。ありがとうございました。



～匠の技、後世へ～ 林業科学科2年石工研修



林業科学科では「石橋」の歴史と文化、施工技術を学び、進路の選択として建築や土木、石工を志す生徒の育成を目的に、ものづくりマイスターの派遣による実技指導『継承後の石工』を毎年実施しています。地元の尾上建設さんや、マイスターの山下さん、藤原さんのご指導の下、模型、支保工を使った組み立て、要石の作成を行いました。最終日には11名それぞれが苦勞して削った要石を中心部分にはめ込み、頑丈かつ強固な石橋が完成しました。これからもこの技術を後世に継承していけるよう頑張っていきます。

矢部高校ホームページでは学校生活の様子を随時更新しています。また、Facebook、Twitter、Instagramも是非ご覧ください。
矢部高校ホームページ <http://sh.higo.ed.jp/yabesh/> Facebook@yabe.highschool
Twitter @yabehighschool Instagram:@yabe_highschool

SDGs未来都市山都町

SDGs 未来都市 『山都町がつくる持続可能な世界』

生ごみの堆肥化に取り組みます



町では、SDGsの普及啓発をはじめ、一般可燃ごみの削減やシニアクラブの活動（「おたっしや野菜」や「えごま」の栽培）を支援するため、地域住民の協力を得て、コンポストによる生ごみの堆肥化事業に取り組んでいます。

一般家庭や飲食店等から日常的に排出される生ごみを堆肥として活用することは、身近なことから取り組むSDGsにも繋がることから、多くの住民に生ごみを堆肥化するモニターとなっていただき、持続可能な町づくりにご協力いただくこととしています。

12月14日から28日にかけて、モニターを対象とした説明会を実施して、コンポストと基材（コンポストの中に最初に入れる材料）を配布しました。



説明会の様子



町の竹林整備で伐採した竹をチップ化し基材として使用します。

配付した竹チップ（基材）とコンポスト



えごま栽培風景

これから、各モニター家庭において生ごみの堆肥化に取り組んでいただき、2月下旬から堆肥の回収を始めます。回収した堆肥は一定期間熟成させた後、シニアクラブの活動に役立てることとしています。



シニアクラブが販売されているえごま油

役場でも生ごみの堆肥化に取り組んでいます。（本庁正面玄関横のコンポスト）



八朔祭の大造り物で使用した芝生の土を使用しています。

問合せ 山の都創造課 ☎72-1158